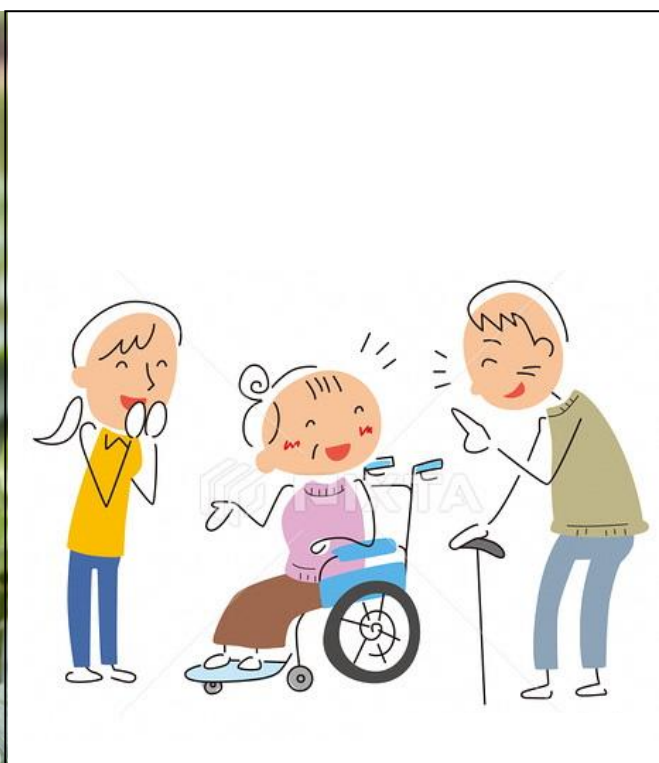


川西町

自宅で困ったときの

生活支援ガイドブック

～高齢者向け～



編集：第1層生活支援コーディネーター
第2層生活支援コーディネーター
発行：川西町地域包括支援センター

令和5年7月

川西町生活支援ガイドブック ～もくじ～

「川西町生活支援ガイドブック」発刊にあたって
地域包括支援センターについて / 生活支援コーディネーターについて

1、	家事等の支援（掃除・洗濯・調理・買い物・ゴミ出し）	P5
2、	食材・日用品の配達	P5～6
3、	お弁当の配達	P7
4、	移動販売	P7
5、	除雪関係	P8
6、	高齢者にやさしいサービス	P9～10
7、	外出支援	
	◇福祉有償運送	P11
	◇介護保険外で使える介護タクシー	P11
	◇町内のタクシー	P11
	◇病院内までの付添い（診察室に入らない）	P12
	◇その他の移動支援	P12
8、	介護保険外で使える自費のホームヘルプサービス	P12
9、	介護保険外で使える見守り・安否確認サービス	P13
10、	自宅でカットしてもらえる理美容院	P14
11、	話し相手ボランティア団体	P14
12、	訪問マッサージ等	P14
13、	訪問歯科診療	P14
14、	訪問診察してくれる内科医院	P15
15、	自宅まで訪問してくれる薬局	P15
16、	地域のサロン等	P16～17
17、	オレンジカフェ	P17
18、	その他の活動	
	各地区の高齢者のクラブ	P18
	各地区ボランティア会等	P19
	川西町ふれあい・いきいきサロン実施団体	P19
	川西町民生委員児童委員	P20～21
	困ったときの相談窓口一覧	P22

「川西町生活支援ガイドブック」発行にあたって

本町では、今後さらに少子高齢化が進み、一人暮らしや夫婦だけで暮らす高齢者の増加が見込まれます。超高齢社会を迎える中“住み慣れた地域で生きがいを持って暮らしていける”よう、歩いていけるような身近な場所で行う「いきいき百歳体操」をきっかけとした『通いの場』を町内に展開し、併せて支え合いの地域づくりを進めています。

このガイドブックは、高齢者の方の生活に役立つ情報をまとめ、高齢者にやさしいサービスをつなぎ、住み慣れた町でできるだけ継続した生活を続けていけるよう期待し作成した冊子です。

本冊子の発刊にあたり、ご協力くださったすべての皆様に厚くお礼を申し上げます。

ご利用にあたってのお願い

この冊子は、生活支援コーディネーターがお店や団体から活動内容等の情報を提供いただき、社会資源として集まった情報の中から、日常生活に役立つ情報を生活の場面に合わせて分類し、冊子としてまとめたものです。

(掲載許可をいただいた情報についてのみ掲載。) 町内全ての情報を掲載できているものではなく、変更されている場合もあります。

ご利用の際には、最新の情報を各個人・団体に確認いただきますようお願いいたします。併せて掲載内容に修正の必要が生じた時や、新たに掲載すべき情報がある場合は、川西町地域包括支援センター (TEL0238-42-6638)にご連絡をいただければ幸いです。

※地域包括支援センターについて

介護、健康、福祉、虐待防止、権利擁護など高齢者の暮らしに関わる、あらゆる相談や問題に対応する総合相談窓口です。

※生活支援コーディネーター(地域支えあい推進員)について

町内各地区に配置し、高齢者の困りごとや地域のニーズ把握、百歳体操、居場所の立ち上げ支援、交流センターとの連携等を行っています。自分たちの町をより良くしていくために地域の支え合いを推進する役割を担っています。

生活支援コーディネーターの具体的な活動内容

●地域にあるサービスなどの把握・活性化

介護保険制度のほかに地域の方が利用できる有料サービスなどを把握します。また、今ある活動を周知したり、活発にしたりします。



●生活支援ニーズ(困りごと)の把握

地域の方の困りごとや「あったらいいな」というサービスを把握します。



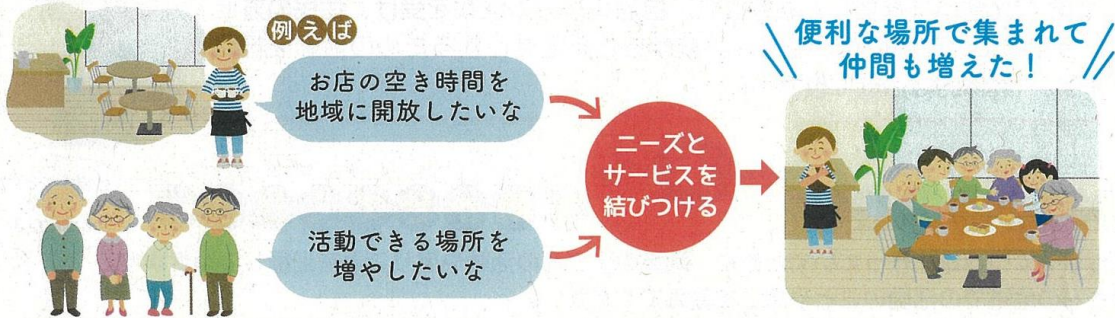
●サービスの担い手の発掘と養成

元気な高齢者やボランティア活動をしたい方などに活動の場を紹介します。



●困っている人と助けたい人をマッチング

地域のニーズ(困りごと)とサービスとのマッチングを行います。



●関係者のネットワークづくり

自治体や社会福祉法人、NPO、老人クラブや地域組織、地域の企業などのネットワークづくりを進めます。



支えることは、自分の活力に

誰かの役に立つことは、支える方の充実感や生きがいにつながります。あなたにできることがきっとあります。その一方で、困ったときは「お互い様」として、遠慮なく支えてもらいましょう。

将来、誰でも人の手を借りるときがくる

高齢者が困っていることは「将来の自分の困りごと」かもしれません。自分の将来のためにも、今困っている人を助けたり、困りごとが解決できる仕組みを作ったりしていきましょう。